

担当した生徒の卒業研究のテーマ

生徒たちは卒業までに、さまざまな授業で多くの調査・発表・レポート作成の機会を持ち、リサーチスキルやプレゼンテーションスキルを身につけ上達させていきます。いよいよ最後の18学期に希望者が履修する「卒業研究」は、卒業までにぜひ取り組みたいというテーマを持つ生徒が、そのテーマについて研究し、論文にまとめ、発表するというSISでの学習の総まとめのような授業となります。

2009年度は15名の生徒が受講し、英語科、社会科、情報科の4名の教員がそれぞれ、2～6名の生徒を担当しました。主に私が担当した5名の生徒の取り組みについて報告します。

	研究テーマ	関連分野
1	バリアフリーの現状と今後	福祉学
2	若者文化 ～若者意識の変化～	社会学
3	勉強することの意義 ～なぜ人は勉強するのか？～	教育学
4	動物行動学の役割 ～動物行動を学んで人間が得るものとは～	生物学
5	恐怖を感じさせる映像とは何か 「羊たちの沈黙」を通して ～どのような演出が恐怖を生み出すのか～	心理学 芸術

研究手順

テーマ決定→リサーチ→資料やデータの整理→アウトライン作成→中間発表→論文執筆→レビュー→発表準備→発表の順で行い、各段階で必要なスキルはゼミ形式で学習し、何度かチェックポイントを設け進捗や内容を確認しました。

取り組みの様子

どの生徒もずっと自分で温めてきた、一番興味のある分野のテーマを選んでるので、モチベーションが高く、とても積極的に取り組んでいて、生徒同士がお互いを刺激する存在になっていました。資料から論文をまとめるだけでなく、実際に週2回、午後の時間すべてを使って、近くの小学校へ「教育実習」のような形で2ヶ月間通い、その体験を論文に盛り込む生徒もいました。英語で取り組みたい生徒はネイティブの先生の担当クラスに入り、ディスカッション、研究、論文、発表のすべてを英語のみで行いました。

合志智子（こうし ともこ）

関西学院 千里国際中等部・高等部
情報科／総合科教諭

大学卒業後、コンピュータメーカーにシステムエンジニアとして勤務。2000年4月より本校の教員として勤務。情報科目の他に、プレゼンテーション、レポート作成、リサーチスキルなどの授業を担当。今年度は中等部1年生の担任。校務分掌は入学広報センター。



論文作成

アウトラインがほぼ決まるまでは、生徒は何度も調べ直したり、書き直したり、苦勞をしていました。論文を書き始めてからも、レポートと論文はいったい何が違うのか、立てた仮説を実証するデータが見つからない、

テーマを広げすぎて論点がぼやけてしまう、選んだ資料の信ぴょう性が不明、提起した問題点と結論がうまくつながらないなど、疑問を持ったり、行き詰ったりの状態も続きました。それでも取り組んだ生徒は、12,000～16,000文字（A4サイズで15～20ページ）程度の論文をしっかりと仕上げました。

発表会

論文を書き上げた生徒は、Power Pointを駆使して表現力のあるスライドを作成し、聞く人を納得させる発表を行うことに取り組みました。SISでは以前から学習成果を発表する「プレゼンテーション大会」というものがあり、卒業研究生はこの大会で2つの役目を果たしました。ひとつは自分たちの研究の発表を行うこと、もうひとつは司会進行や会場準備、質疑応答等の大会運営を自分たちの手で行うことです。

すべてを終えた生徒たちは、自分の取り組みたかった研究に組み組めたという満足感、論文を仕上げるまでの苦勞、発表の場での予想以上の評価、取り組んだ分野は違っても仲間で励まし合ってゴールできたといううれしい気持ちなど、いろいろ混じった達成感を感じてくれたことと思います。



関西学院 千里国際中等部・高等部

〒652-0032 大阪府茨貫面市小野原西 4-4-16

TEL : 072-727-5070 FAX : 072-727-5055

HP : www.senri.ed.jp E-mail : admissions@senri.ed.jp



高校3年間の最後の学期（18学期）のプロジェクト。その中の新しい取り組みの「卒業研究」の紹介です。

研究のステップ（研究・論文作成・発表）は一般的であっても、その内容や指導などに、千里国際のユニークさが出ています。高校入学以来、英語あるいは日本語で学んできた幅広い教科や内容を背景に生徒自身が興味・関心あるテーマを選んでいきます。そして、幅広いテーマを指導できる、文化や教育背景の異なる先生方も他校では見られません。

インター校と共存するだけではなく、そのメリットを生かした、日本の学校では考えられないほどの多様性に富んだ教育を提供する千里国際のユニークさ。それは、海外から帰国した生徒にとって、本当に貴重です。